民生常任委員会提出資料
令和６年４月５日市立旭川病院

市立旭川病院における新型コロナウイルス感染症への対応について

昨年５月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが５類に変更され，その後の定点把握における市内の発生動向では，８月下旬の２１．６９人をピークに１１月下旬の４．３１人にまで減少したものの，１２月上旬からは再び増加に転じ，今年２月初旬には１７．８５人まで増加するなど，過去の経過と同様，周期的に増減を繰り返しながら推移してきている状況にある。それ以降，現在においては，落ち着いた状況が続いているが，今年度においては昨年度までは見られなかった季節性インフルエンザの同時流行も発生しており，それらへの対応も行ってきたところである。

このような中，病床確保料等に関わる補助金を始め，診療報酬上の加算，コロナ治療薬や入院医療費の自己負担分に係る公費負担など，国の特例的な措置については今年３月をもって終了し，４月からは通常の医療提供体制に移行するなど，新型コロナウイルス感染症に関わる医療機関を取り巻く環境は，大きな転換期を迎えている。

当院においては，今後も新型コロナが周期的な感染拡大を繰り返す可能性があること，感染力が強く，院内で集団感染が発生した場合には他の診療への影響が懸念されること，高齢者を中心に一定数の入院患者が存在していることなどから，今後においても新型コロナウイルス感染症を念頭に置いた診療を当面，継続していく考えであるが，令和５年度下期分の状況等を中心に，昨年度における当院の対応について，次のとおり報告する。

１　当院におけるコロナ感染症患者の発生状況及び対応状況について

５類移行後においては，上期に引き続き下期においても，入院診療や職員の感染対策は２類相当時と同様に対応し，特に一部の診療科では入院前抗原検査を行うなど，院内での感染拡大による診療体制への影響を最小限とする取組みを継続

している。

院内における集団感染の発生状況については，９月に発生して以降も，１０月，１１月，１月及び２月に一部の病棟で発生している。ただし，その都度，病棟での感染対策の徹底，発熱職員の出勤自粛や疑似症職員の出勤前抗原検査などの健康チェックにより，更なる院内での感染拡大を防いできている。

入院面会については，市内の感染状況に鑑み昨年７月３１日から中止していたが，ＷＥＢによる面会予約システムを新たに導入し，人数や時間等に制限を設けた上で，１月９日から再開している。事前予約により，面会者による病棟の密状態の回避と，患者及び家族の利便性向上が図られている。

令和５年度においては，昨年５月に外来診療における担当医師によるコロナチームが解散するなどの診療体制の変更があったものの，コロナ感染患者への対応をはじめ，院内における感染対策は基本的に従前の対応を継続してきた。

一方で，市内の感染状況に比例して，当院職員や入院患者の感染も確認されており，数度の院内集団感染も発生したが，これまでの経験を生かしながら，診療への影響を最小限に食い止めるなど，コロナ診療と一般診療との両立に努めてきたところである。

２　感染症病棟の入院患者数について

５類への移行後，コロナ専用病床を１２床確保してきており，確保病床によらない形となった１０月以降においても市内の感染状況に鑑み，専用病床１２床を継続し，患者の受入れを行ってきたところである。

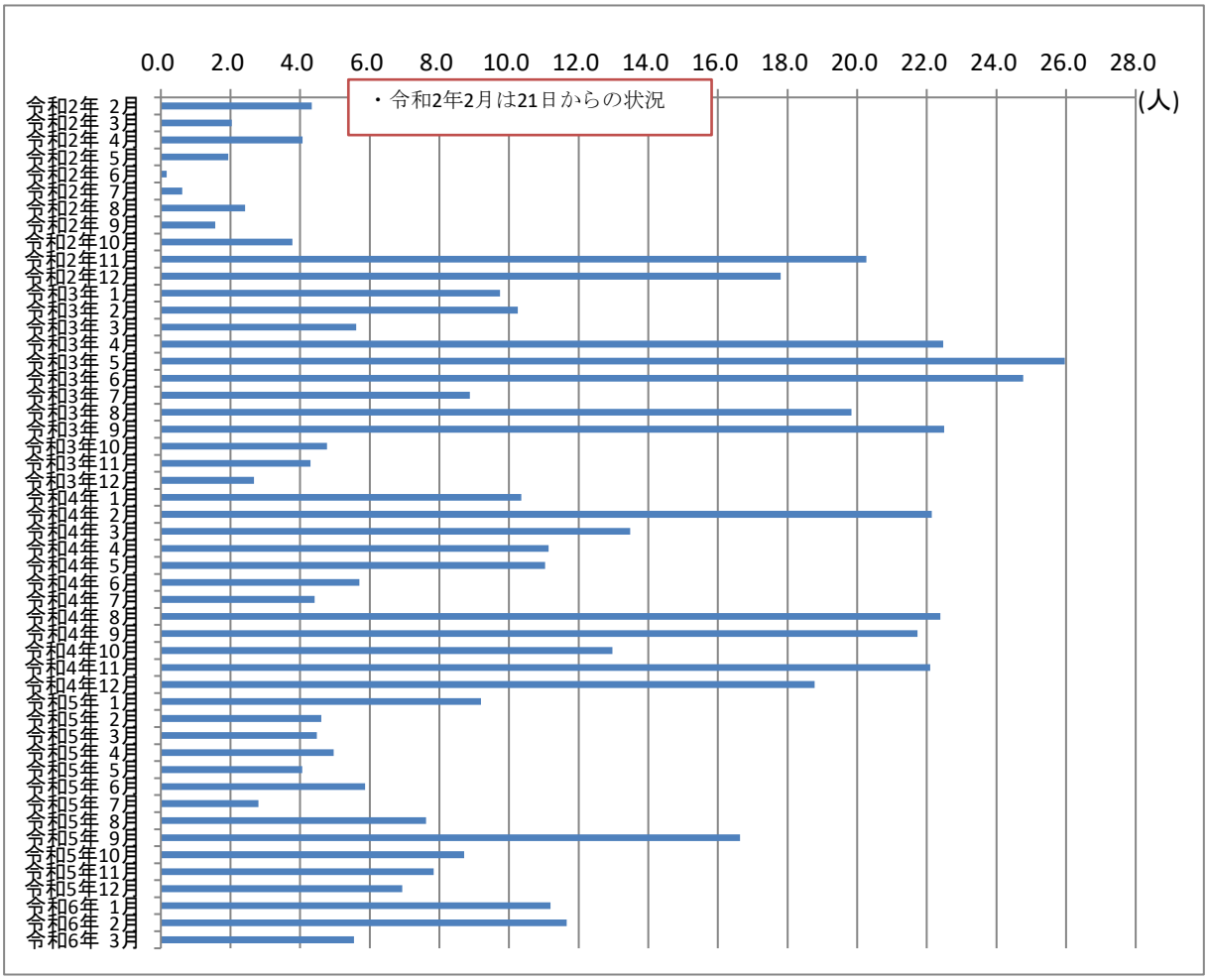
令和２年２月から今年３月３１日までの延べ入院患者数は，疑い患者を含めて１５，３５５人となっており，このうち令和５年度の患者数は２，８５０人となっている。

１日当たりの月平均患者数は，表１のとおり，市内の感染状況を反映し，９月には１６．６人と確保病床を超える患者数まで増加し，その後減少するも下げ止まりの状況が続いていたが，１月には１１．２人，２月については１１．７人と

一部病棟で集団感染が発生した影響もあり，高い水準で推移したところである。

今後も入院患者数が０になることは考えられず，また，市内の感染状況や院内における集団感染の発生等により，一定の増減を繰り返すものと想定しており，４月以降も当面の間，専用病床１２床を確保することとしている。

【表１：感染症病棟の入院患者数（１日当たり（月平均））】



３　病院全体の患者数について

(1) 入院患者数について（表２参照）

年度を通じて新型コロナ感染症の影響を大きく受け，低調に推移した令和４年度と比較すると，５類移行後の令和５年度においては，いずれの月も前年同月を大きく上回っており，特に昨年１１月以降においては一定程度の増加が見られるなど，堅調に推移している。

しかしながら，依然としてコロナ禍以前の令和元年度の水準には戻っていない状況にあり，令和５年度の患者数増加を足掛かりに，今後の更なる増加を目指しているところである。

(2) 外来患者数について（表３参照）

入院患者と同様に，年度を通じて新型コロナ感染症の影響を大きく受け，低調に推移した令和４年度と比較すると，令和５年度については僅かながら回復傾向にあるものの，患者数は依然として低迷している状況にある。しかしながら，令和５年度における１月期までの累計では，市内５基幹病院の中では，唯一，対前年度比がプラスとなっている。

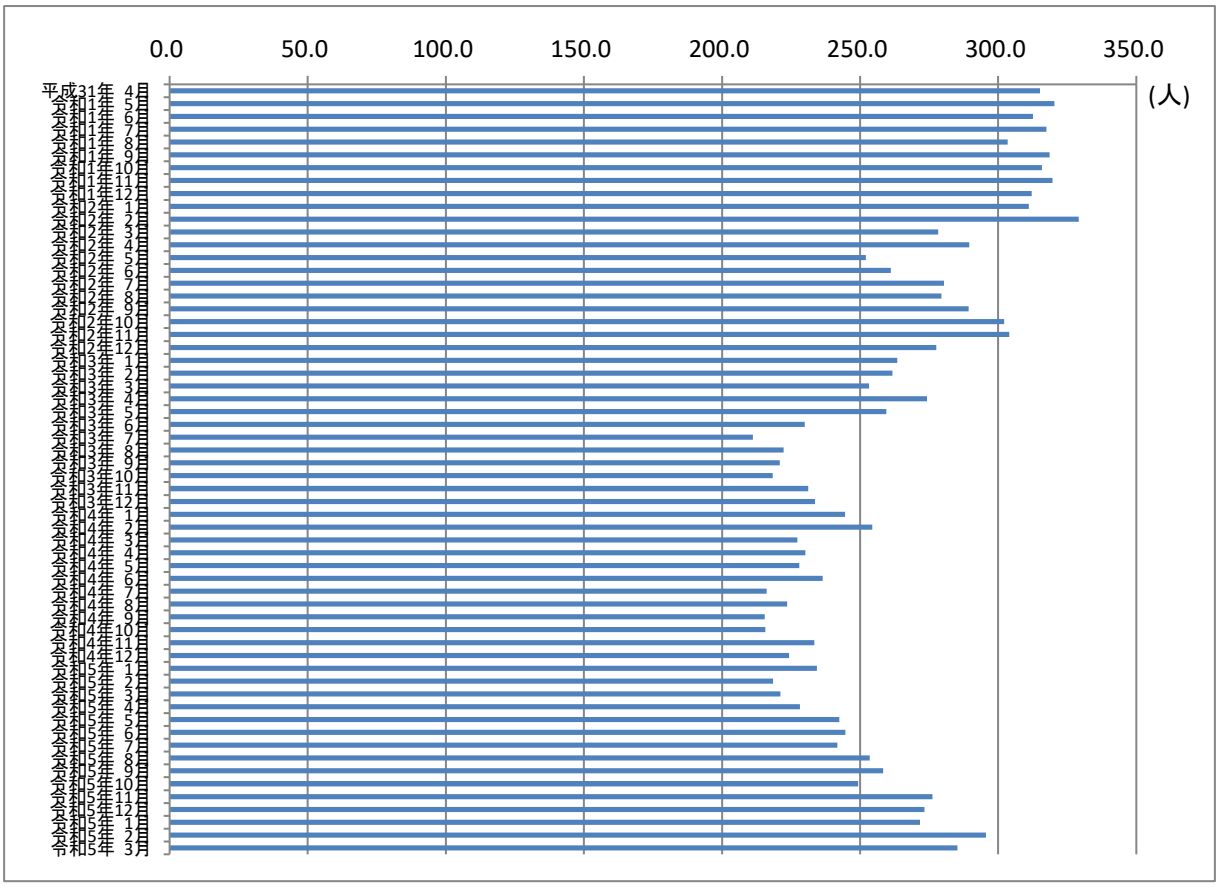
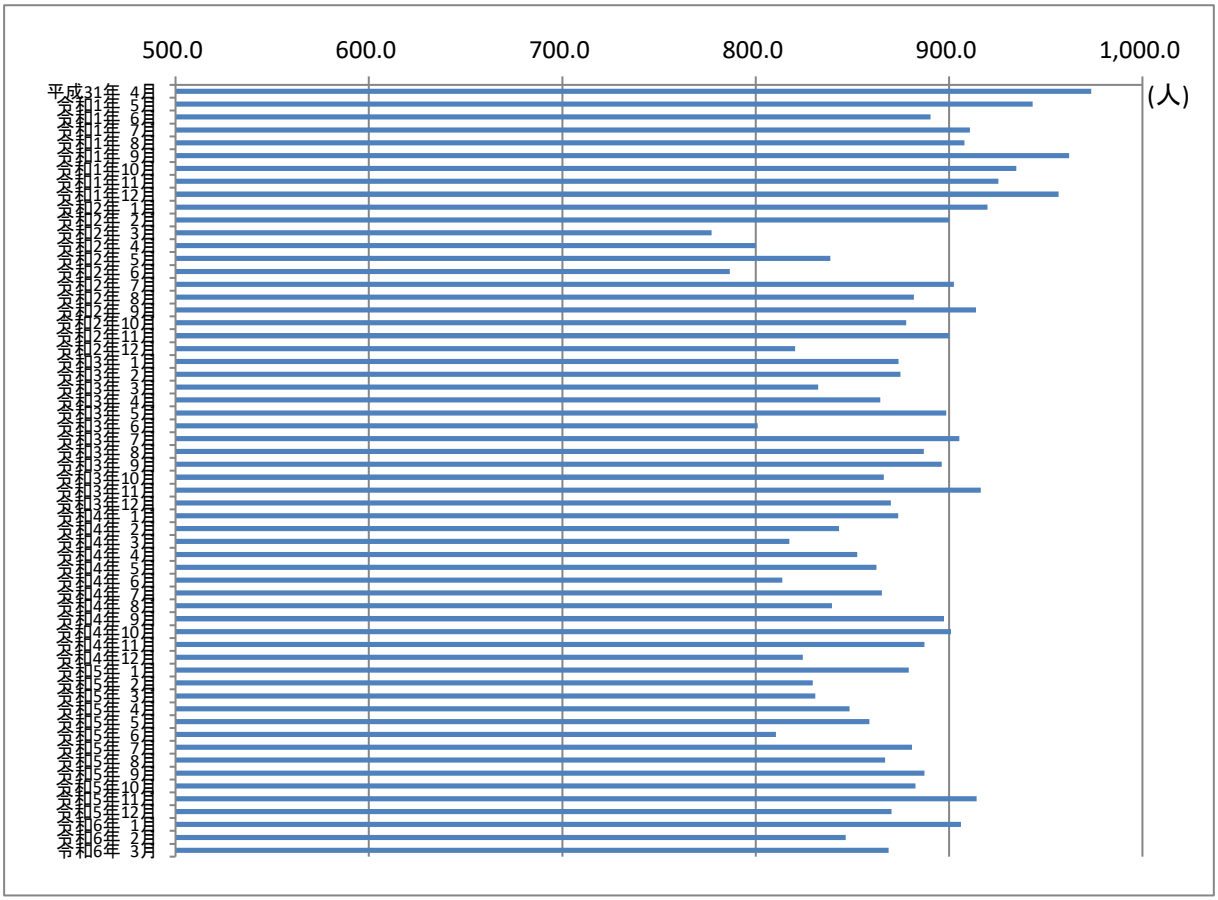
外来患者の減少については，コロナ禍による患者の受診動向の変化も指摘されているが，引き続き，更なる回復に努めているところである。

令和５年度の患者数については，入院・外来とも前年度実績を上回る結果となったが，コロナ禍以前の水準にまでは戻りきっておらず，患者数回復への着実な第一歩を踏み出すことはできたものの，安定的な経営に向けた患者数の確保には一定の期間が必要になるものと考えている。

令和６年度においては，引き続き，一般診療に軸足を置きながら，感染状況に応じた新型コロナへの臨機応変な対応を継続するとともに，患者数，特に入院患者数の更なる増加に向けて，近年，件数が増加傾向にある救急搬送に最大限対応するとともに，紹介受診重点医療機関として，市内診療所等との連携をより一層

強化し，紹介患者の獲得に努力していく考えである。

【表２：入院１日平均患者数】



【表３：外来１日平均患者数】